

第14回 クボタ・毎日地球未来賞 応募・推薦用紙（2024年度）

締め切り 9月17日（火）

【一般の部（ ） 学生の部（○）】 【自薦（○） 他薦（ ）】

ふりがな	ふくいけんりつさかいこうとうがっこうさばなはん			
団体名・個人名	福井県立坂井高等学校草花班			
個人で応募の場合	職業	年齢(応募時) < 歳 >		
団体で応募の場合	代表者の役職名	農場長		
	ふりがな	はすうら よしゆき		
	年齢(応募時)	< 48歳 >		
	氏名	蓮浦 義之		
	携帯TEL	090-2038-4408		
	代表者と別に、毎日新聞社からの問い合わせに対応する人がいる場合			
役職名 (なくて可)				
ふりがな				
氏名	携帯TEL			
	役員	人	職員	人
	会員	8人 (概数で可)		
所在地・連絡先	〒	919-0512		
		福井県坂井市坂井町宮領57-5		
	TEL	0776-66-0268		FAX 0776-66-2668
	E-mail	y-hasuura-kv@ma.fukui-ed.jp		
設立年月 または活動開始時期	西暦	2014 年	4 月	(設立年までも構いません)
活動資金・財源	設立当初資金	45000円	年間活動費	45000円
	財源	生徒会費		財源 県基礎実験費
設立目的(概要)	平成26年4月に福井県立坂井農業高等学校生産技術科課題研究草花班が研究班として発足。福井県立坂井高等学校食農科学科農業コース草花班に引き継がれ、生徒2～6名で毎年構成されている。			
協力・連携団体等	板倉みどりクラブ、竹田文化共栄会こどもの森運営委員会			
受賞歴(名称・年) ※毎日地球未来賞以外の事業・コンテストなどでの受賞歴	日本自然保護大賞入選・2023年 福井県里海湖研究所活動表彰・2023年 福井県学校農業クラブ連盟第74回年次大会プロジェクト発表会優秀賞・2024年 日本学校農業クラブ北信越ブロック大会長野大会プロジェクト発表会優秀賞・2024年			
毎日地球未来賞各賞の受賞歴	なし			
毎日地球未来賞への応募歴(第●回応募など可能な範囲で)	第12回応募			
定期刊行物、著書等	Ciconia(福井県自然保護センター研究報告)27:173-184(2024) 課題研究集録			
ホームページURL	https://www.sakai-h.ed.jp/sdgs/sdgs			

活動内容(概要)

アゼオトギリは水田の畦に生育する雑草である。8月には黄色花を咲かせる。韓国の南部の一部や日本の関東以西で、福井県や三重県などにわずかな株が生育している絶滅危惧IB類の植物である。平成28年に九頭竜川パイプラインの整備の際に、大群集地帯であった福井県坂井市丸岡町板倉地区、大森地区、野中山王地区で300株から50株に激減し、あと27年で絶滅するとわかった。平成26年から保全活動で福井県立大学生物資源学部吉岡教授と共同研究を始めた。地域の保全団体板倉みどりクラブが管理している自生地近くの栽培場所があり、枯れた部分に毎年移植することで株の数を維持している。最初は福井県立大学より苗を提供していただいていたが、坂井高校の農場に栽培場所を作り、大学教授退官後も本校から苗を提供し、種の保存を継続している。この活動の結果現在も株数が減少していない。さらに、立派な苗を確実に生産し、移植に提供できるように生態を調査した。アゼオトギリの発芽と休眠パターンの1年史を作成でき、受粉をする訪花昆虫や他殖性から自殖性に変化するパターンなども解明できた。確実に種を発芽させ苗を作成することができた。農家さんからすれば苦勞して除去している雑草をなぜ守り増やすのかという疑問が生まれる。そのため、アゼオトギリ以外の雑草への効果やジャンボタニシ防除など利点を研究し、農業に活かしていく研究を続けている。

エチゼンダイモンジソウは世界中探しても福井県坂井市丸岡町竹田地区にあるたけくらべ山の県境の山岳にしか生育していない絶滅危惧種である。平成27年に福井大学奥野教授より保全活動のお話をお聞きし、地域の保全団体こどもの森運営委員会を紹介され、平成28年から共同研究が始まった。種や苗をいただき増殖活動を試みたが、土に播種しても発芽せず、バイオテクノロジーを利用し、無菌播種での発芽に成功した。現地の環境を模した栽培場所を考案し、DX事業で整備された人工気象室で苗をつくり、自生地近くに整備された栽培場所木育ガーデンSTUDYに移植している。教授退官後も継続的に地域の方と活動を続け、定着した株数も増えた。

2つの活動を通しSDGs活動宣言を行い、ふくいSDGsパートナーにも登録した。4番目の「質の高い教育をみんなに」ではマイノリティに着目し、多様性や平等な世界を構築する1つの方法と位置づけ、考え方を知っていただき、さらに活動の活性化を目指し、PR活動を積極的に行いました。絶滅危惧種はマイノリティーであり、人類に対しての1つのシグナルである。アゼオトギリは利便性と環境負荷の軽減のバランスを考えた新しい農業を考えていかなければならないというシグナルをはっていると受け止めている。エチゼンダイモンジソウも人類による環境負荷に関する警告を発していると考えている。年間40件近くの取材新聞掲載や報道、発表会参加で多くの方に知っていただくことができた。15番目の「陸の豊かさを守ろう」と17番「パートナーシップで目標を達成」を合わせ、3つの目標を掲げ、地域の方や校内の生徒教職員など多くの方で絶滅危惧種の保全活動を行い、利便性と環境負荷の軽減のバランスを考えた新しい農業を考え、この技術を地球上にある他の絶滅危惧種に応用し、絶滅リストから外れることを目指している。

【推薦者】	自薦でも推薦者がいる場合は書いてください。推薦者の「印」は不要です。推薦者がいなくても大丈夫です	
団体名・代表者役職・氏名		
担当部署・役職・氏名		
推薦理由		
所在地・連絡先	〒	推薦書作成日
	TEL	FAX
	携帯TEL	
	E-mail	

【重要】この用紙への記述に加えて、「詳細な活動内容や今後の目標、活動を始めたきっかけ」など特に強調したいことは、A4サイズ8枚以内にまとめて送ってください。写真やグラフ添付など形式は自由です。
パンフレットなど参考資料の提出は、2点までとします。
データ送付できない資料は8部郵送してください。選考委員に送ったりするためです。ご負担をおかけします。
※応募・推薦用紙や資料などの内容は、毎日新聞社の取材・報道に使用することがあります
※提出いただいた書類及び資料は返却いたしません。
※応募者、被推薦者、推薦者の方に、事務局から受賞記念発表会等の案内を出すことがあります。電話番号、メールアドレスなどの情報は今年度事業終了後も毎日新聞社にて管理の上、次回以降の応募案内や受賞記念発表会の案内などご連絡させていただくことがございます。ご了承ください。
また、応募情報は業務委託先の「毎日新聞大阪開発株式会社」とも共有させていただき、応募者、被推薦者、推薦者の方へ諸連絡をさせていただきます。
当社の「個人情報の取り扱い」につきましては下記URLよりご確認ください。
https://www.mainichi.co.jp/contact/personal_information.html